

## 講演要旨

タイトル: フロンティアを切り拓く西アフリカから始めるキャリア～マリ共和国の今を伝える～

講演者: 増村友博 (R4 海洋生物資源科学専攻卒)

日付: 2023 年 9 月 16 日

場所: 北水同窓会大阪府支部 9 月例会

要約: 大学院卒業後西アフリカで就職した経緯と、現地の実情を語る

### 講演内容:

1. アフリカとの出会いとこれまでの経緯
2. マリ共和国の基本情報
3. マリ共和国から見るアフリカの現状
4. 今思うことと今後のビジョン

### 内容詳細:

1. 高校生の時に観たある映画からルワンダに興味を持つ。ルワンダについて調べていると大虐殺という悲惨な出来事からわずか 20 余年で見事な経済発展を遂げたという事実を知る。そこからアフリカ大陸は自分にとっての憧れとなった。大学院生時代のインターンシップ先からつながったご縁でマリ共和国での就職を決意。
2. マリ共和国の風景、食事、文化、課題について写真を中心に解説する。多様な民族が共生しており、ニジェール川を中心に発展した豊かな文化と自然がある。しかし、クーデターが後を絶たず情勢は不安定である。現在の暫定大統領であるゴイタ政権は脱フランスを掲げている。
3. クーデターの背景には、西欧諸国の搾取がみられる。マリの場合金が豊富に採掘されるが、その 70%がフランスに流出している。また法定通貨である CFA フランも西アフリカ諸国の発展を阻害する要因の 1 つとなっている。ルワンダ大虐殺にもみられるように西欧諸国のダブルスタンダード（相手によって意見を変えたり、特定の相手に便宜を図ったりすること）に苦しめられている国は少なくない。中国やロシアに近寄りを見せる国が多いという構造もこれに起因すると考えられる。

4. 現地に来て思うことは、ごく当たり前のことではあるが、物事を自分だけの物差しで測ってはいけないということである。また、何かの問いに絶対的な答えを求めるのも間違っているということである。事象を相対的に捉え、根本となっている人々の思想や歴史に目を向けて構造的に視ることが非常に重要であることを感じている。日本を離れて、日本の暮らしやすさを身に染みて感じながらも、自由の多さというものは時にマイナスにもなりうるということも感じている。現在は現地法人での事業に注力しており、アフリカの発展の一助になれることにやりがいを持っている。それと同時に、日本人として、日本にも何らかの形でここで培ったものを還元したいと考えている。マリの日本代表を目指し、両国から必要とされる人材となることを目標とする。

